

(2) 専門基礎分野

【ねらいと構成】

看護に必要な人体の構造と機能、おもな病態のメカニズムと診断、治療に関する基礎的な知識を理解する。

健康や生活を支えている社会保障制度や保健医療制度を理解し、保健医療福祉チームメンバーと協働し、看護者としての役割を果たすための基礎的な知識を理解する。

専門基礎分野	人体の構造と機能 <
--------	---

科目群:専門基礎分野

3年度		授業科目	生化学	担当教員	太田 好次	単位(時間数)	1(30)
第1学年						担当時間数	30
学習目的・目標	生命現象を可能にしている化学変化や体内の恒常性維持機構について学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	生体の成り立ちと生体分子			講義	教室	
2	/	タンパク質の性質			講義	教室	
3	/	酵素の性質と働き			講義	教室	
4	/	生体内における糖質の働き1			講義	教室	
5	/	生体内における糖質の働き2			講義	教室	
6	/	生体内における糖質の働き3			講義	教室	
1	/	生体内における糖質の働き4			講義	教室	
2	/	生体内における脂質の代謝1			講義	教室	
3	/	生体内における脂質の代謝2			講義	教室	
4	/	生体内における脂質の代謝3			講義	教室	
5	/	生体内における脂質の代謝4			講義	教室	
6	/	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝1			講義	教室	
3	/	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝2			講義	教室	
4	/	生体内における拡散の役割			講義	教室	
5	/	中間試験(第1回から14回の中間に中間試験を実施する)				教室	
6	/	試験				教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。60分にて試験をし、配点は100点とする。					
教科書		NOUVELLE HIROKAWA『わかりやすい生化学』第5版					
参考書							
履修上の留意点		中間試験を欠席した場合、中間試験の再試験は実施しません。 100点で実施する中間試験と最終試験の点数を合計し、平均点を最終評価とする。					

科目群: 専門基礎分野

3年度		授業科目	看護形態機能学Ⅰ	担当教員	三木 研作	単位(時間数)	1(30)
第1学年						担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容			看護師国家試験対策講師経験20年				
実務経験を活かした実践的な授業内容			看護師国家試験対策講師の経験に基づいた講義により、人体の構造と機能を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: これから、病気や看護の勉強を進めていくのに必要なヒトのからだのしくみを学ぶ 目標: 学生自身が学び、以下のしくみがわかり、説明ができる。 ・体内の環境を保つためのホルモンをつくるしくみ ・血液と血液を送る心臓や血管のしくみ ・情報を伝える脳や神経のしくみ						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	4/22	・看護形態機能学は何のために学ぶのか？そして看護を学んでいくのに必要なことは？ ・ヒトのからだに存在して働く臓器の種類 ・体温や水分など体内の環境を保つホメオスターシス(恒常性)			講義	教室	
2	5/13	1. 体内の環境を保つしくみ ・いろいろなホルモンをつくる下垂体			講義	教室	
3	5/20	・代謝に関わる甲状腺 ・カルシウムの移動に関わる副甲状腺			講義	教室	
4	5/27	・電解質に移動や糖の代謝に関わる副腎			講義	教室	
5	6/3	2. 酸素と栄養を臓器に送るしくみ ・血液の中にある細胞(血球)と血液にある物質			講義	教室	
6	6/10	・血液を送り出す心臓 ・血液の流れ			講義	教室	
7	6/17	今までのまとめ(1)			講義	教室	
8	6/24	・血液を流す血管のつくり、動脈・静脈の違いとその名称、 ・免疫に関係し、脂肪を運ぶリンパとリンパ管			講義	教室	
9	7/1	・心臓の様子を判断する心電図 ・血液の流れるスピードを表す血圧			講義	教室	
10	7/8	3. 外部と内部をつなぐ脳・神経 ・体のすみずみとの情報をやりとりする中枢神経と末梢神経 ・いろいろな役割をもつ大脳			講義	教室	
11	7/15	・脳を守る髄膜と脳脊髄液 ・生命を維持するための脳幹			講義	教室	
12	9/2	・体のバランスを保つ小脳 ・運動を助ける大脳基底核			講義	教室	
13	9/9	・感覚や運動の情報のやりとりをする末梢神経(脳神経と脊髄神経)			講義	教室	
14	9/16	・光や音を感じるしくみ(眼と耳)			講義	教室	
15	10/7	今までのまとめ(2)			講義	教室	
研	10/18	試験				教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。配点は100点、試験時間は60分とする。試験問題は、選択肢の正誤を答える50問である。 試験時、 自分で作成した手書きの学習ノートのみ持ち込み可。問題は各選択肢の正誤を答える。問題数は50問。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能1 メディックメディア 病気がみえる vol. 2 循環器(春に発売予定。発売次第購入)					
参考書など		医学芸術社 解剖生理をおもしろく学ぶ メヂカルフレンド社看護につなげる形態機能学 菱沼 典子 医学書院 目でみるメカニズム 堺 章 メディックメディア社 病気がみえる vol. 1、3～Vol. 12 医学書院 3D解剖アトラス[3Dメガネ付] 横地千仟 骨格標本模型、人体解剖模型、 インターネット(You Tubeなど)					
履修上の留意点		遠隔授業で始まる予定です(9月から対面授業になる可能性あり)。パワーポイントと、その内容を資料にしたものを使いながら授業を進めていきます。なかなか、慣れないかもしれませんが、授業などで気になる事(字が見にくいやスピードが速いなど)がありましたら、遠隔授業ツールのチャット機能などでお教えてください。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門基礎分野

3年度		授業科目	看護形態機能学Ⅱ	担当教員	近藤 ゆかり 内田 ひかり		単位(時間数)	1(30)
第1学年							担当時間数	30
【近藤ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験6年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			病院での臨床経験に基づいて、看護に必要な人体の構造と機能について講義する。					
【内田ひかり】 授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験7年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			病院での臨床経験に基づいて、看護に必要な人体の構造と機能について講義する。					
学習目的・目標	目的：人間が生きるための日常生活行動を学ぶ。 目標：以下のしくみがわかる。 ・息をする ・動く ・食べる ・トイレに行く							
回数	月日	学習内容			方法	場所	講師	課題
1	／	形態機能学では何を学ぶのか？			講義	教室	内田	
2	／	1. 息をする 呼吸器系の構造を理解する。外呼吸と内呼吸とは？			講義	教室	内田	
3	／	・気道の機能を理解する。 ・肺の機能を理解する。 ・呼吸のプロセスを理解する。			講義	教室	内田	
4	／	・呼吸中枢と呼吸運動の調節について理解する。			講義	教室	内田	
5	／	・呼吸機能検査と呼吸器系の機能障害について理解する。			講義	教室	内田	
6	／	2. 動く ・骨格系 骨の構造と機能、人間の骨格、関節の構造と機能			講義	教室	内田	
7	／	・筋系 骨格筋の構造と機能、筋収縮のメカニズム、反射と随意運動			講義	教室	内田	
8	／	3. 食べる ・「食べる」とは？ ・口・咽頭・食道・胃の構造と機能			講義	教室	近藤	事前課題
9	／	・消化と吸収とは？ ・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能			講義	教室	近藤	事前課題
10	／	・消化器系の機能障害について理解する			講義	教室	近藤	
11	／	4. トイレに行く ・腎臓の機能や構造 ・腎臓の体液調節・内分泌機能 ・腎機能障害について			講義	教室	近藤	事前課題
12	／	・排尿路の構造と機能 ・尿の貯蔵と排尿のメカニズム ・腸と肛門、排便のメカニズム ・排泄機能障害について			講義	教室	近藤	事前課題
13	／	・消化・排泄機能障害について形態機能の視点から理解する			講義	教室	近藤	
14	／	5. 看護形態機能学のまとめ ・事例を使って看護形態機能学での学びを活かす。 ・体の中におこっていることをイメージする。 ・必要な看護を考える。			講義	教室	内田	
15	／	試験、授業のまとめ				教室		

評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。 試験は45分で実施し、配点は近藤先生20分で40点、内田先生25分で60点です。 課題は8時50分までに提出する。
教科書	メヂカルフレンド社 看護につながる形態機能学 菱沼 典子 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① メディックメディア 病気がみえる4 呼吸器 第3版
参考書	骨格標本模型、人体解剖模型 メディックメディア 病気がみえる1 消化器 第6版 医学書院 イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき 第3版 田中越郎 医学書院 『系統看護学講座』準拠 解剖生理学ワークブック
履修上の留意点	学習目標達成への近道は、解剖生理の理解をして臨むことです。そのための事前課題になっています。 課題の提出は、指定日・時間を厳守する。

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度		授業科目	病理学	担当教員	伊藤 真文	単位(時間数)	1(30)	
第1学年						担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容			医師臨床経験40年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			医師(病理診断科)としての経験に基づいた講義により、病気の原因、成り立ち、発生機序を学ぶ。					
学習目的・目標	目的: 疾病の成り立ちと人体に生じる変化について学ぶ。							
回数	月日	学習内容				方法	場所	課題
1	/	1. 病理学で学ぶこと、細胞・組織の障害と修復 1				講義	教室	
2	/	2. 細胞・組織の障害と修復 2				講義	教室	
3	/	3. 循環障害 1				講義	教室	
4	/	4. 循環障害 2				講義	教室	
5	/	5. 炎症と免疫、移植と再生医療 1				講義	教室	
6	/	6. 炎症と免疫、移植と再生医療 2				講義	教室	
7	/	7. 感染症 1				講義	教室	
8	/	8. 感染症 2、代謝障害 1				講義	教室	
9	/	9. 代謝障害 2				講義	教室	
10	/	10. 先天異常と遺伝子異常				講義	教室	
11	/	11. 腫瘍 1				講義	教室	
12	/	12. 腫瘍 2				講義	教室	
13	/	13. 老化と死				講義	教室	
14	/	14. まとめ				講義	教室	
15	/	15. 試験、授業のまとめ					教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。試験時間は45分、配点は100点とする。						
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学						
参考書								
履修上の留意点								

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	治療概論Ⅰ	担当教員	井上 順子 池田 哲也 川口 道子 河合 紀幸 山口 通孝	単位(時間数)	1(30)	
第1学年					担当時間数	30	
【井上順子】 授業科目に関連した実務経験の内容		臨床検査技師経験32年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		臨床検査技師としての経験に基づいた講義により、臨床検査における基礎的知識を学ぶ。					
【池田哲也】 授業科目に関連した実務経験の内容		診療放射線技師経験38年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		診療放射線技師としての経験に基づいた講義により、放射線における検査と治療の基礎的知識を学ぶ。					
【川口道子】 授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験16年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(麻酔科)としての臨床経験に基づいた講義により、周術期の基礎的知識を学ぶ。					
【河合紀幸】 授業科目に関連した実務経験の内容		臨床工学技士経験29年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		臨床工学技士としての経験に基づいた講義により、医療機器のしくみと取り扱いについての基礎的知識を学ぶ。					
【山口通孝】 授業科目に関連した実務経験の内容		理学療法士経験15年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		理学療法士としての経験に基づいた講義により、リハビリテーションについての基礎的知識を学ぶ。					
学習目的・目標	目的：診断と治療の基礎的知識を学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	講師名
1	/	臨床検査の基礎、主な臨床検査			講義	教室	井上 順子
2	/	血液検査と免疫・血清検査			講義	教室	
3	/	ホルモン検査と病理検査			講義	教室	
4	/	生理機能検査			講義	教室	
5	/	放射能について			講義	教室	池田 哲也
6	/	放射線治療について			講義	教室	
7	/	外科領域の診断と管理の基本			講義	教室	川口 道子
8	/	手術侵襲と生体の反応			講義	教室	
9	/	各種麻酔法			講義	教室	
10	/	術後合併症			講義	教室	

11	/	ME機器と看護① 電気・ガスなどの特性	講義	教室	河合 紀幸
12	/	ME機器と看護② 測定・治療機器の基本説明	講義	教室	
13	/	リハビリテーション概論	講義	教室	山口 通孝
14	/	リハビリテーションの実際	講義	教室	
15	/	リハビリテーションの実習 杖歩行・移乗動作介助等	講義	実習室	
	/	試験		教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。60分の試験をし、配点は、100点とする。 講師毎の配点は、井上先生:15分で25点、池田先生:10分で15点、川口先生:15分で25点、河合先生:10分で15点、山口先生:10分で20点とする。			
教科書		臨床検査(井上):医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 放射線療法(池田):医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 周術期(川口):メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 周術期看護 :秀和システム 看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 ME機器(河合):医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 リハビリテーション(山口):医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			
履修上の留意点					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門基礎分野

4年度	授業科目	治療概論Ⅱ	担当教員	佐藤 英和	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		薬剤師経験29年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		薬剤師としての経験に基づいた講義により、薬物の特徴、作用の基礎知識及び薬物の管理について学ぶ。				
学習目的・目標	目的： 薬物の特徴、作用の基礎知識及び薬物の管理について学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1	/	薬理学総論(1)	講義	教室		
2	/	薬理学総論(2)	講義	教室		
3	/	抗感染症薬	講義	教室	各論 第3章	
4	/	抗がん剤、免疫治療薬	講義	教室	各論 第4章・5章	
5	/	抗アレルギー薬、抗炎症薬	講義	教室	各論 第6章	
6	/	末梢での神経活動に作用する薬物	講義	教室	各論 第7章	
7	/	中枢神経系に作用する薬物(精神疾患治療薬)	講義	教室	各論 第8章	
8	/	中枢神経系に作用する薬物(麻酔薬、麻薬性鎮痛薬)	講義	教室		
9	/	循環器系に作用する薬物 (降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬)	講義	教室	各論 第9章	
10	/	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物	講義	教室		
11	/	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	教室	各論 第10章	
12	/	物質代謝、皮膚科用薬、眼科用薬に作用する薬物	講義	教室	各論 第11章・12章	
13	/	救急の際に使用される薬物、漢方薬	講義	教室	各論 第13章・14章	
14	/	消毒薬、輸液、輸血	講義	教室	各論 第15章・付章	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	試験にて評価する。試験時間は45分、配点は100点とする。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度		授業科目	治療概論Ⅲ	担当教員	刑部 恵介	単位(時間数)	1(30)
第1学年						担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容			臨床検査技師21年				
実務経験を活かした実践的な授業内容			臨床検査技師としての臨床経験を活かした講義により、微生物の生態及び人体に及ぼす影響や反応、滅菌・消毒に関する知識を学ぶ。				
学習目的・目標	目的：微生物の生態を学び、人体に及ぼす影響や反応及び滅菌・消毒に関する知識を学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	微生物学総論			講義	教室	
2	/	細菌の性質			講義	教室	
3	/	真菌・ウイルスの性質			講義	教室	
4	/	感染に対する生体防御機構(自然免疫)			講義	教室	
5	/	感染に対する防御機構(獲得免疫)			講義	教室	
6	/	感染と感染症			講義	教室	
7	/	試験、授業のまとめ			講義	教室	
8	/	感染症の予防			講義	教室	
9	/	感染症の治療			講義	教室	
10	/	呼吸器感染症(1)			講義	教室	
11	/	呼吸器感染症(2)			講義	教室	
12	/	消化器・性感染症			講義	教室	
13	/	神経系・真菌感染症			講義	教室	
14	/	ウイルス感染症			講義	教室	
15	/	試験、授業のまとめ				教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。配点は100点、試験時間は45分とする。 中間試験を実施し、最終試験と合わせ総合評価をする。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門基礎 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進[3]					
参考書							
履修上の留意点							

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅰ	担当教員	大野 城二	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	20
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験30年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(呼吸器科)としての臨床経験に基づいた講義により、呼吸器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 呼吸器系の病気の原因、病気の病態・検査・治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 呼吸器の構造と機能	講義	教室		
2	/	2. 呼吸器の検査、たんの検査、スパイロメトリー 血ガスとサチュレーション、感染症(インフルエンザ)	講義	教室		
3	/	3. インフルエンザと肺炎一般について	講義	教室		
4	/	4. 肺結核について、肺真菌症	講義	教室		
5	/	5. 間質性肺炎、塵肺、喘息	講義	教室		
6	/	6. COPD、サルコイドーシス、ハイパーベンチ、拡張症	講義	教室		
7	/	7. SAS、L・Kの診断まで(前半)	講義	教室		
8	/	8. L・Kのstagingと治療(後半)	講義	教室		
9	/	9. 胸膜疾患(気胸、胸膜炎)、ターミナルケア	講義	教室		
10	/	10. 中皮腫、縦隔腫瘍、肺梗塞、ope後の看護	講義	教室		
研		試験		教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。試験時間は30分、配点は70点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学 2					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅰ	担当教員	田中 宏明	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	10
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験28年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(耳鼻咽喉科)としての臨床経験に基づいた講義により、感覚器系(耳鼻咽喉)の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 感覚器系(耳鼻咽喉)の病気の原因、病気の病態・検査・治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 耳の構造と機能、聴覚・平衡機能検査、耳のCT、外耳疾患	講義	教室		
2	/	2. 耳の疾患、のどの解剖と疾患	講義	教室		
3	/	3. のどの疾患	講義	教室		
4	/	4. 鼻の解剖と疾患	講義	教室		
5	/	5. 唾液腺腫、テスト対策	講義	教室		
研		試験		教室		
評価方法		筆記試験にて評価する。試験時間は15分、配点は30点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。				
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学 14					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅱ	担当教員	齋藤 誠	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	20
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験36年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(循環器内科)としての臨床経験に基づいた講義により、循環器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 循環器及び血液・造血器系の病気の原因、病気における形態・機能の変化を学び、治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	病態治療論の学び方	講義	教室		
2	/	循環障害と心不全	講義	教室		
3	/	心臓の症状	講義	教室		
4	/	心臓疾患の検査法	講義	教室		
5	/	先天性心疾患	講義	教室		
6	/	心臓弁膜症	講義	教室		
7	/	心筋症	講義	教室		
8	/	血圧異常 動脈系・静脈系疾患	講義	教室		
9	/	虚血性心疾患	講義	教室		
10	/	不整脈	講義	教室		
研		試験		教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。試験時間は30分、配点は60点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学 3					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度		授業科目	病態治療論Ⅱ	担当教員	宮崎 仁	単位(時間数)	1(30)
第1学年						担当時間数	10
授業科目に関連した実務経験の内容			医師臨床経験35年				
実務経験を活かした実践的な授業内容			医師(血液内科)としての臨床経験に基づいた講義により、血液・造血器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 血液・造血器系の病気の原因、病気の病態・検査・治療について理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当
1	/	1.血液の成分と機能(総論)			講義	教室	
2	/	2.血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 ・貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、二次性貧血)			講義	教室	
3	/	3.血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 ・造血器腫瘍(急性白血病)			講義	教室	
4	/	4.血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 ・造血器腫瘍(骨髄増殖性腫瘍、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)			講義	教室	
5	/	5.血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 ・出血性疾患(特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群)			講義	教室	
研	/	試験				教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。試験時間は15分、配点は40点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学4					
参考書							
履修上の留意点							

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅲ	担当教員	莊加 道太 和田 応樹	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	18
【莊加道太】						
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験12年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(外科)としての臨床経験に基づいた講義により、消化器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
【和田応樹】						
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験35年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(乳腺外科)としての臨床経験に基づいて、乳腺についての構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的:消化器系の病気の原因、病気における形態・機能の変化を学び、検査・治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	講師	課題
1	/	1. 消化器の構造と機能	講義	教室	莊加	
2	/	2. 上部消化管の疾患	講義	教室		
3	/	3. 口・咽頭・食道の疾患	講義	教室		
4	/	4. 下部消化管の疾患	講義	教室		
5	/	5. 肝炎	講義	教室		
6	/	6. 肝硬変、肝癌	講義	教室		
7	/	7. 胆石、胆のう炎、胆のう癌	講義	教室		
8	/	8. 膵炎、膵癌、虫垂炎、イレウス	講義	教室		
9	/	9. 乳癌	講義	教室	和田	
研		試験		教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。試験時間は30分、配点は莊加先生50点、和田先生10点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学 5 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学 9 (9回目に使用します)					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅲ	担当教員	犬飼 規夫	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	12
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験19年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(整形外科)としての臨床経験に基づいた講義により、運動器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	運動器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 運動器の構造と機能	講義	教室		
2	/	2. 整形外科総論、整形外科とは、診断	講義	教室		
3	/	3. 骨折、脱臼、小児三大疾患	講義	教室		
4	/	4. 骨系統疾患、感染、OA、RA、痛風、腫瘍	講義	教室		
5	/	5. 代謝性骨疾患～脊椎疾患	講義	教室		
6	/	6. 下肢および下肢帯の疾患	講義	教室		
研		試験		教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。試験時間は15分、配点は40点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学10					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅳ	担当教員	川久保 充裕	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	18
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験11年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(糖尿病・内分泌内科)としての臨床経験に基づいた講義により、内分泌・代謝系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 内分泌・糖尿病疾患について、その病態・検査・治療について理解する。疾患に合わせた適切な患者の療養指導が行えるような知識を身につけ、実践できるようにする。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 内分泌系の器官の構造と機能 ・内分泌系とホルモン ・脳にあるホルモン分泌器官 ・成長ホルモン	講義	教室		
2	/	2. 内分泌系とホルモン ・プロラクチン、バソプレシン、オキシトシン、メラトニン	講義	教室		
3	/	3. 甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病)	講義	教室		
4	/	4. 副甲状腺、性腺ホルモン、消化管ホルモン	講義	教室		
5	/	5. 副腎皮質の疾患 (アジソン病、クッシング症候群、原発性アルドステロン症)	講義	教室		
6	/	6. 副腎髄質の疾患、糖尿病の基本	講義	教室		
7	/	7. 糖尿病の診断・症状・合併症	講義	教室		
8	/	8. 糖尿病の治療、メタボリック症候群、痛風	講義	教室		
9	/	9. 実習(糖尿病患者さんに対するリーフレット作成)	講義	教室		
研		試験		教室		
評価方法	筆記試験と実習におけるリーフレットにて評価する。筆記試験は、試験時間は30分、配点は45点とする。リーフレットは15点の配点予定。(合計60点) 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学 6 メディックメディア 病気がみえる3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅳ	担当教員	栗木 修 平田 朝彦	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	12
【栗木 修】						
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験36年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(泌尿器科)としての臨床経験に基づいた講義により、腎・泌尿器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
【平田朝彦】						
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験23 年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(泌尿器科)としての臨床経験に基づいた講義により、腎・泌尿器系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 腎・泌尿器系の病気の原因、病態・検査・治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1.泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 ・腎炎、慢性腎臓病、腎不全	講義	教室		
2	/	2.泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 ・炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎)	講義	教室		
3	/	3.泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 ・腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌)	講義	教室		
4	/	4.泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 ・腎・尿路結石	講義	教室		
5	/	5.泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 ・排尿障害(過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症)	講義	教室		
6	/	6.体液調節の疾患の病態と診断・治療 ・酸塩基平衡の異常(アシドーシス、アルカローシス)	講義	教室		
研	/	試験		教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。試験時間は15分、配点は40点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学 8					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅴ	担当教員	横江 敏雄	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	16
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験33年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(脳神経外科)としての臨床経験に基づいた講義により、脳・神経系の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的： 脳・神経系の病気の原因、病気の病態・検査・治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 神経組織の構造と機能	講義	教室		
2	/	2. 中枢神経系について	講義	教室		
3	/	3. 末梢神経系、自律神経系、意識水準について	講義	教室		
4	/	4. 脳腫瘍について	講義	教室		
5	/	5. 高血圧性脳内出血、クモ膜下出血について	講義	教室		
6	/	6. 虚血性脳血管障害、髄膜炎について	講義	教室		
7	/	7. パーキンソン病、重症筋無力症、アルツハイマー病	講義	教室		
8	/	8. まとめ	講義	教室		
研		試験		教室		
評価方法		筆記試験にて評価する。試験時間は25分、配点は60点とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。				
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学 7				
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度	授業科目	病態治療論Ⅴ	担当教員	岩田 恵美 赤堀 友彦	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	14
【岩田恵美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		医師臨床経験24年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		医師(眼科)としての臨床経験に基づいた講義により、感覚器系(眼)の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
【赤堀友彦】 授業科目に関連した 実務経験の内容		医師臨床経験8年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		医師(眼科)としての臨床経験に基づいた講義により、感覚器系(眼)の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 感覚器系(眼)の病気の原因、病気の病態・治療・検査について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1	/	眼の構造と機能	講義	教室	赤堀	
2	/	眼科の検査	講義	教室		
3	/	眼の構造と機能、眼の機能障害、眼瞼・結膜の疾患	講義	教室	岩田	
4	/	網膜疾患	講義	教室	赤堀	
5	/	角膜、水晶体、強膜、ぶどう膜、神経系外傷の疾患	講義	教室	岩田	
6	/	眼科外来見学	見学 実習	市民病院	赤堀 岩田	
7	/	眼科外来見学				
研	/	試験		教室		
評価方法		筆記試験にて評価する。試験時間は20分(2講師各々10分)、配点は40点(2講師各々20点)とする。 試験は、講義時間外の時間で実施する。				
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 成人看護学 13				
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

4年度	授業科目	病態治療論Ⅵ	担当教員	馬庭 浩子	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験37年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(小児科)としての臨床経験に基づいた講義により、小児の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。					
学習目的・目標	目的: 小児の主な病気の原因、診断・治療について学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	小児の発育と発達			講義	教室	
2	/	先天異常			講義	教室	
3	/	新生児の生理			講義	教室	
4	/	新生児疾患(1)			講義	教室	
5	/	新生児疾患(2)			講義	教室	
6	/	代謝・内分泌疾患			講義	教室	
7	/	アレルギー疾患			講義	教室	
8	/	ウイルス感染症、予防接種			講義	教室	
9	/	細菌感染症			講義	教室	
10	/	呼吸器疾患			講義	教室	
11	/	循環器疾患			講義	教室	
12	/	消化器疾患			講義	教室	
13	/	血液疾患、悪性腫瘍			講義	教室	
14	/	腎疾患、神経疾患			講義	教室	
15	/	試験、授業のまとめ				教室	
評価方法	試験にて評価する。試験時間は45分、配点は100点とする。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]・[2] 講談社 『こどもの病気の地図帳』						
参考書							
履修上の留意点							

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

4年度	授業科目	病態治療論Ⅶ	担当教員	廣澤 友也	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	20	
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験19年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(産婦人科)としての臨床経験に基づいた講義により、女性生殖器の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。					
学習目的・目標	目的: 女性生殖器の健康障害による形態機能の変化及び治療過程を促進するための知識を学習する。 目標: 1. 女性生殖器に発生する疾患の病態と診断・検査・治療・予後について理解する。 2. 周産期におこりやすい異常な状態の病態と診断・検査・治療・予後について理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	月経周期と性ホルモン動態			講義	教室	
2	/	月経異常			講義	教室	
3	/	不妊症			講義	教室	
4	/	妊娠の異常1			講義	教室	
5	/	妊娠の異常2			講義	教室	
6	/	分娩の異常1			講義	教室	
7	/	分娩の異常2			講義	教室	
8	/	胎盤、胎位の異常			講義	教室	
9	/	女性生殖器の疾患1			講義	教室	
10	/	女性生殖器の疾患2			講義	教室	
研	/	試験				教室	
評価方法		授業中のプレゼンテーションとレポート、及び、試験にて評価する。 試験時間は30分、配点は70点とする。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学(9) 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論					
参考書		医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論					
履修上の留意点							

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門基礎分野

4年度	授業科目	病態治療論Ⅶ	担当教員	尾市 誠	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	10
授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験17年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(皮膚科)としての臨床経験に基づいた講義により、感覚器系(皮膚)の人体の構造と機能、病態生理と症状、診断過程、主な治療方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 内分泌・代謝及び感覚器系(皮膚)の病気の原因、病気における形態・機能の変化を学び、治療について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所		
1	/	1. 皮膚の構造と機能、表在性皮膚疾患	講義	教室		
2	/	2. 真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器の疾患、脈管系の皮膚疾患、物理・化学的皮膚障害	講義	教室		
3	/	3. 腫瘍および色素異常症	講義	教室		
4	/	4. 微生物・動物が関与する疾患	講義	教室		
5	/	5. 内臓疾患に伴う皮膚病変	講義	教室		
研	/	試験		教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。試験時間は15分、配点は30点とする。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学 12					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

4年度	授業科目	病態治療論Ⅷ	担当教員	川崖 拓史(1～8回、10～15回) 川崖 真知(9回)	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【川崖拓史】 授業科目に関連した実務経験の内容		医師臨床経験27年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		医師(精神科)としての臨床経験に基づいた講義により、精神医療の歴史的背景と諸問題、精神疾患の症候・診断・治療を学ぶ。				
【川崖真知】 授業科目に関連した実務経験の内容		臨床心理士経験23年 公認心理師経験2年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		臨床心理士・公認心理師としての経験に基づいた講義により、精神療法、心理療法、心理検査を学ぶ。				
学習目的・目標	目的：精神の病気と治癒過程を促進するための知識を学ぶ 目標：1. 精神疾患の症候・診断・治療を理解する。 2. 精神科医療の歴史・現状・制度的・法的諸問題を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	現代の諸問題	講義	教室		
2	/	精神障害と治療の歴史	講義	教室		
3	/	精神の健康と障害	講義	教室		
4	/	症候学(1)	講義	教室		
5	/	症候学(2)	講義	教室		
6	/	症候学(3)、診断学(1)	講義	教室		
7	/	診断学(2)、治療学(1)	講義	教室		
8	/	治療学(2)、器質性精神障害(1)	講義	教室		
9	/	精神療法、心理療法、心理検査	講義	教室		
10	/	器質性精神障害(2)、統合失調症(1)	講義	教室		
11	/	統合失調症(2)、気分障害(1)	講義	教室		
12	/	気分障害(2)、神経症(1)	講義	教室		
13	/	神経症(2)、その他(1)	講義	教室		
14	/	その他(2)	講義	教室		
15	/	精神障害と文化、社会学、法律	講義	教室		
研	/	試験		教室		
評価方法	試験にて評価する。試験時間は45分、配点は100点とする。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1)・(2)、別巻 精神保健福祉					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

3年度		授業科目	医療論	担当教員	禰宜田 政隆	単位(時間数)	1(15)
第1学年						担当時間数	15
授業科目に関連した実務経験の内容			医師臨床経験35年				
実務経験を活かした実践的な授業内容			医師としての臨床経験に基づいた講義により、医療の変遷、医療と看護の原点、医療倫理について学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 医療の本質や歴史・倫理及び医療の抱える今日的な問題について学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	医療と看護の原点			講義	教室	
2	/	医療の歩みと医療観の変遷			講義	教室	
3	/	私たちの生活と健康			講義	教室	
4	/	科学技術の進歩と現代医療の最前線			講義	教室	
5	/	現代医療の新たな課題			講義	教室	
6	/	医療を見つめなおす新しい視点			講義	教室	
7	/	保健・医療・福祉の潮流			講義	教室	
8	/	試験				教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。45分にて試験をし、配点は100点とする。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論					
参考書							
履修上の留意点							

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門基礎分野

4年度	授業科目	看護管理概論	担当教員	鈴木 育子 清政 一二三 鳥居 ゆかり	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
【鈴木育子】							
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験37年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいた講義により、看護に関する法律と看護専門職者としての基本的行動について学ぶ。					
【清政 一二三】							
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験35年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいた講義により、職員の安全管理と看護職のキャリア開発について学ぶ。					
【鳥居 ゆかり】							
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験31年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいた講義により、臨床における医療安全の実際を学ぶ。					
学習目的・目標	目的: 看護管理の基礎を学び、患者ケア・看護サービス提供のマネジメントについて理解する。						
	目標: 1. 看護管理の基礎を学び、看護ケアを効果的に行う方法を理解する。 2. 保健師助産師看護師法を理解し、看護専門職の自覚をもつ。 3. 医療安全管理について理解し、安全な看護の基本的行動の基礎ができる。 4. 看護師として基本的倫理行動を形成する。 5. 看護専門職として自律するため、セルフ・キャリアマネジメントを考える。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当
1	/	看護管理・看護サービスの基本的概念			講義	教室	鈴木
2	/	看護サービス提供の方法論			講義	教室	
3	/	看護サービス提供の実際と課題			講義	教室	
4	/	卒後教育・人材育成			講義	教室	
5	/	看護専門職			講義	教室	
6	/	チーム医療・情報管理・看護経済			講義	教室	
7	/	保健師助産師看護師法			講義	教室	
8	/	保健師助産師看護師法			講義	教室	
9	/	感染管理			講義	教室	清政
10	/	職員の安全管理			講義 演習	教室	清政
11	/	医療安全管理の基礎			講義	教室	鳥居
12	/	医療安全:KYT			講義	教室	鳥居
13	/	看護職のキャリア開発			講義 演習	教室	清政
14	/	キャリアプランの作成			講義	教室	清政
15	/	看護倫理			講義 演習	教室	鳥居

	/	試験		教室	
評価方法	グループワーク参加度、個人レポート、テストで評価する。 試験は45分で実施し、講師毎の配点は、鈴木先生(25分で60点)、清政先生(10分で20点)、鳥居先生(10分で20点)とする。				
教科書	医学書院 系統看護学講座 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 看護関係法令 医学書院 系統看護学講座 看護管理 医学書院 系統看護学講座 医療安全				
参考書	そのつど、資料提供する。				
履修上の留意点					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門基礎分野

4年度		授業科目	公衆衛生学	担当教員	栗田 秀樹	単位(時間数)	1(15)	
第2学年						担当時間数	15+研修2	
学習目的・目標	広く人間の健康に関わる基礎的事項を学び、人間の健康問題に対する解決策と予防策について理解を深め、健全な生活環境の構築と健康な社会生活を実践する知識を習得する。							
回数	月日	学習内容				方法	場所	課題
1	/	公衆衛生の概念(公衆衛生の意義、歴史、健康日本21(第2次)、健康増進法等)				講義	教室	
2	/	環境保健(地球環境汚染、環境保全、公害、廃棄物等)				講義	教室	
3	/	国民栄養と食品保健(食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食中毒、食品衛生法等)				講義	教室	
4	/	人口統計(人口静態・動態統計、疾病統計)				講義	教室	
5	/	疾病の疫学と予防(予防医学、疫学、感染性、非感染性疾患の疫学と予防)				講義	教室	
6	/	公衆衛生活動の実際(母子保健、学校保健、老人保健等)				講義	教室	
7	/	公衆衛生活動の実際(精神保健、産業保健、国際保健等)				講義	教室	
8	/	保健医療論(保健・医療・福祉の資源、地域保健、社会保障制度等)				講義	教室	
9	/	試験					教室	
評価方法		定期試験を実施する。 評価は定期試験の成績、授業の出席状況、受講態度を総合的に判断して決定する。						
教科書		メディックメディア「公衆衛生が見える2021-2022」						
参考書		「国民衛生の動向」2021/2022(厚生統計協会)						
履修上の留意点		講義で利用した配布資料等について30分程度復習し、要点をノートにまとめ、理解すること。 講義終了後10分程度教室にて質問を受け付ける。						

科目群: 専門基礎分野

4年度	授業 科目	社会福祉	担当 教員	大藪 元康	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
学習目的・目標	・社会保障制度の概要を説明することができる。 ・「福祉六法」の概要を述べることができる。 ・公的扶助(生活保護)制度を説明できる。特に、医療保険・介護保険との関係について、そのしくみと課題を述べることができる。 ・社会福祉援助技術の概要を理解し、福祉専門職との連携のあり方を説明できる。 ・社会福祉、社会保障の考え方がどのように生まれたかを説明できる。					
回数		学習内容	方法	場所	課題	
1	／	現代社会と社会福祉 社会の変化・家族の変化 (第2章)	講義	教室		
2	／	社会保障の全体像 (第1章)	講義	教室		
3	／	社会保障給付費、社会福祉の実施体制・従事者(第1章)	講義	教室		
4	／	社会福祉法と福祉六法(第1章)	講義	教室		
5	／	医療保障制度の概要(第3章)	講義	教室		
6	／	医療保障制度の詳細(第3章)	講義	教室		
7	／	介護保険制度の概要(第4章)	講義	教室		
8	／	介護保険制度の詳細(第4章)	講義	教室		
9	／	年金保険制度(第5章)	講義	教室		
10	／	雇用保険、労災保険、社会手当(第5章)	講義	教室		
11	／	公的扶助制度 生活保護制度の概要(第6章)	講義	教室		
12	／	生活保護制度の課題(第6章)	講義	教室		
13	／	社会福祉のサービス 高齢者福祉(第7章A)	講義	教室		
14	／	社会福祉のサービス 障害者福祉、児童家庭福祉(第7章B・C)	講義	教室		
15	／	社会福祉援助技術(第8章)、社会福祉の歴史(第9章)	講義	教室		
研	／	試験		教室		
評価方法		試験100%				
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度[3]				
参考書						
履修上の留意点		新聞やテレビで紹介されている「社会保障」に関する内容などが、この講義の内容に関わります。授業以外にも社会福祉に関心を持ってみてください。				

科目群: 専門基礎分野

4年度		授業科目	関係法規	担当教員	入江洋子、小堀美和、 禰宜田政隆、川崖拓史、 廣澤友也、佐藤英和		単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15		
【小堀美和】								
授業科目に関連した 実務経験の内容			社会保険労務士歴23年。					
実務経験を活かした 実践的な授業内容			社会保険労務士としての実務経験を活かした講義により、実例を用いながら労働基準法を中心に、知っておきたい労働関連法規の知識を身に付ける。					
【禰宜田政隆】								
授業科目に関連した 実務経験の内容			医師臨床経験35年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容			医師、病院長としての実務経験を活かした講義により、医療に係る法規の知識を身に付ける。					
【川崖拓史】								
授業科目に関連した 実務経験の内容			医師臨床経験27年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容			精神科医師としての実務経験を活かした講義により、精神保健及び精神福祉に関する法規の知識を身に付ける。					
【廣澤友也】								
授業科目に関連した 実務経験の内容			医師臨床経験19年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容			医師としてまた厚生労働省における実務経験を活かした講義により、感染症に関する法規の知識を身に付ける。					
【佐藤英和】								
授業科目に関連した 実務経験の内容			薬剤師臨床経験29年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容			薬剤師としての実務経験を活かした講義により、薬事法に関する法規の知識を身に付ける。					
学習目的・目標		目的：看護に必要な法規を学ぶ。 目標：看護職に必要な法を学び、法律で規定されている看護師の業務や責任について理解を深める。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当講師	
1	/	1. 法規の概念			講義	教室	入江 洋子	
2	/	2. 労働基準法			講義	教室	小堀美和	
3	/	3. 医療関係法規(1)			講義	教室	禰宜田政隆	
4	/	4. 医療関係法規(2)			講義	教室		
5	/	5. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			講義	教室	川崖拓史	
6	/	6. 感染症に関する法律			講義	教室	廣澤 友也	
7	/	7. 薬事法			講義	教室	佐藤 英和	
8	/	試験				教室		

評価方法	試験にて評価する。60分の試験をし、配点は、100点とする。 講師毎の試験時間と配点は、禰宜田先生:20分で25点、他の5講師は各8分で15点とする。
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令
参考書	メディック メディア 公衆衛生がみえる 2021-2022(廣澤先生の授業にて使用)
履修上の 留意点	教科書を読み新聞・テレビなどから関連のニュースに関心を持つ

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門基礎分野

4年度		授業科目	栄養学	担当教員	太田 好次	単位(時間数)	1(30)
第2学年						担当時間数	12
学習目的・目標	生命現象を可能にしている化学変化や体内の恒常性維持機構及び生命の源としての栄養について学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	単元目標
1	/	ビタミン(水溶性)			講義	教室	水溶性ビタミンを理解する
2	/	ビタミン(脂溶性)			講義	教室	脂溶性ビタミンを理解する
3	/	食物(栄養素)消化・吸収1			講義	教室	食物の消化・吸収を理解する
4	/	食物(栄養素)消化・吸収2			講義	教室	食物の消化・吸収を理解する
5	/	栄養素の評価			講義	教室	栄養素の評価を理解する
6	/	試験(90分)				教室	
評価方法		筆記試験にて評価する。60分の試験をし、配点は40点とする。					
教科書		NOUVELLE HIROKAWA わかりやすい生化学 第5版					
参考書		NOUVELLE HIROKAWA わかりやすい生化学整理ノート					
履修上の留意点							

科目群:専門基礎分野

4年度	授業科目	栄養学	担当教員	勝野 裕子 石田 繁範	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	18
【勝野 裕子】						
授業科目に関連した実務経験の内容		管理栄養士経験18年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		管理栄養士としての経験に基づいた講義により、生命の源としての栄養を学ぶ。				
【石田 繁範】						
授業科目に関連した実務経験の内容		管理栄養士経験8年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		管理栄養士としての経験に基づいた講義により、生命の源としての栄養を学ぶ。				
学習目的・目標	生命現象を可能にしている化学変化や体内の恒常性維持機構及び生命の源としての栄養について学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	・食生活と栄養食事療法 ・医療・福祉の場における栄養食事療法 ・病人食の特徴と種類	講義	教室		
2	/	・循環器疾患患者の栄養食事療法	講義	教室		
3	/	・上部消化器疾患患者の栄養食事療法	講義	教室		
4	/	・腎疾患患者の栄養食事療法	講義	教室		
5	/	・代謝性疾患患者の栄養食事療法	講義	教室		
6	/	・呼吸器疾患患者、妊産婦、小児、高齢者の食事療法	講義	教室		
7	/	・嚥下障害患者、下部消化器疾患患者の栄養食事療法	講義	教室		
8	/	・癌・低栄養・褥瘡患者の栄養食事療法	講義	教室		
9	/	・血液疾患、術前術後の栄養食事療法	講義	教室		
評価方法	筆記試験にて評価する。30分の試験をし、配点は60点とする。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 日本糖尿病学会・文光堂 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在